

学校目標		重点目標(中期長期的目標)：「主体的に取り組み、自己表現できる生徒の育成」	総合評価		
「剛健質実」		1 全校研究テーマ「主体的に取り組み、自己表現できる生徒の育成」を具現するための3つの重点 ① 習得・活用・(探究)のプロセスを通じた「深い学び」 ② 他者との互恵的・協働的(意見交換等)な活動を通じて、考えを広げ、深める「対話的な学び」 ③ 見通しを持って粘り強く取り組み、自分の学習活動を振り返って次に伝える「主体的な学習」 2 学力向上プラン ・板書の充実「めあて (M) を書く (K) 板書 (B) 」を常に心がける。(MKB作戦) ・一人一公開授業を見合い、授業力を高める。 ・小グループで意見交換する機会をとり、「思考力・判断力・表現力」を高め合う。 ・授業づくり情報「ひとりごと」を参考にして、日頃の授業をお互いが見返す。 3 本校が長年大切にしてきた、生活の3本柱「挨拶」「歌声」「無言清掃」を学校の生活目標にし全校でその具現に努める。	成果と課題	評価	改善策・向上策
〇こつこつ勉強しよう。：自分の思いを伝えながら納得するまで学ぼうとする姿	〇厳しく鍛えよう。：先入観を捨て、互いを大切にしながら、集団を高めようとする姿		1、2 3つの重点「主体的・対話的で深い学び」は、新学習指導要領で求められるものである。この概念についての理解を深めていくために、本年度は一公開授業で小グループでの学び合いの機会を通じた生徒の学ぶ姿を研修し合った。職員会や職員朝会で様々な教育情報に触れる中で、「主体的・対話的で深い学び」のイメージが少しずつ具体化してきている。 ・全校研究授業(数・美)と一人一公開の授業を通して研究の重点について考えることができた。 ・一人一公開後の「授業を語る会」が今年度新たにスタートした。 ・授業内で、グループ活動や発表する機会を取り入れて対話や表現の力を身につけようとした。 ・「対話的な学び」な学びは不足していた。	B b	・来年度は、学校づくりのねらいを「生徒のよさと可能性を伸ばす学校づくりと、学び合いを軸とした授業を通して思考力・判断力・表現力を高め、自律した学習者を育てる」とし、めざす学校像を「授業を学校づくりの根幹と考える学校」と考えている。 ・聴く・問うという「肯定的な依存関係」を活用して、「学び合いを軸とする授業」を実施し、重点に迫りたい。その取組を通して一人一人の教職員の教科指導力と生徒指導力を高めたい。
〇良い友だちをつくろう。：自己を厳しく鍛え、切磋琢磨しながら成長しようとする姿	〇3 本校が長年大切にしてきた、生活の3本柱「挨拶」「歌声」「無言清掃」を学校の生活目標にし全校でその具現に努める。			3 「挨拶」「歌声」「無言清掃」はとてもよくできる。合唱、清掃は飛躍的に向上しており、3年生が3年間で積み上げてきたものを、「よい姿」と後輩が受け止めて引き継ごうとしている姿がある。このことが、学校生活を安定させる大きな基盤となっている。	A a

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策	
教育課程	教育	学力向上の保障	〇知識・技能を習得する学習と、知識技能を活用する学習を行って、思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を行うことができたか。	・全国学力・学習状況調査、NRTは概ねよい結果である。全体として十分でない分野や内容については補充指導し、個々の生徒の学力向上に努め、思考力・判断力・表現力を全領域で伸ばしたい。	B b	・教科でつける「思考力・判断力・表現力」の中身を明確にし、学び合いを活用して、その力がつくよう教材研究に重点を置きたい。	
		総合的な学習の時間充実	〇学年総合・グループ総合の中で、探究型の学習活動を通して、課題解決力やコミュニケーション力、発信力を高めることができたか。	・今まで伝統的に取り組んできた活動が探究的な学習になるよう、扱い方を再検討し、3年間でつくれる力を考えて全体のカリキュラムを更に整理していきたい。	B b	・各学年の核となる単元を考え、課題解決型の探究的な学習でつながるようカリキュラムを再構成したい。	
教育指導	教	「解決したい課題」の設定から3観点を意識した授業構想	〇追究したい課題が設定され、めりはりのある活動を行い、つた力をみとどける授業になっていたか。(授業の3観点「ねらい、めりはり、みとどけ」) わかりやすい板書ができていたか、MKB(めあてを書く板書)	・めあての板書は概ねよい。振り返りを大事に、まとめの板書を生徒と共にやりたい。 ・昨年に比べて、よりねらいをはっきりとさせた授業を心がけることができた。	A b	・わかりやすい板書が継続。ICTを活用して課題把握・説明・まとめを効率よく行い、生徒が主体的に学び合う時間を十分保証したい。	
		自己表現力の育成	〇表現力が高まるような課題を追究しているか。 〇表現力を高めるための手立て(言語活動、グループ学習等)の工夫ができたか。 〇ICTの活用に取り組めたか。	・ICT機器については、表現力を高めるための手立ての一つとして、積極的に活用することができた。 ・ICTでは、書画カメラを有効に使い、短時間での課題把握、丁寧な説明、意見発表に役立った。 ・今年度、ICT環境が大幅に更新された。効果のあるものなので稼働率を上げていきたい。	A a	・全普通教室・特別支援教室に電子黒板機能付きのプロジェクターと書画カメラが設置される予定。全教科・全職員で日常的に取組み、授業の終末で自分の意見を堂々と述べる力を伸ばしたい。	
		家庭学習の習慣化	〇家庭学習を継続的に粘り強く取り組む習慣が身につく指導ができたか。(作業にならない工夫、授業とのつながり、自主性の伸張)	・毎日の家庭学習の課題は、必ず授業とかわりのある内容にするなど工夫した教科とやや固定化してしまった教科があった。内容のメリハリ、十分でない生徒への個別指導力を入れたい。	B b	・平日と週末の内容、個に応じた内容、テスト前の内容等を工夫し、主体性と学力のつく方法を具体化し推進したい。	
		部活動	活動時間の設定 目標と規律のある活動	〇スポーツ文化活動運営委員会の活動が有効に働いているか。 〇部活動強化月間、夏期と冬期の日課、週一の休養日の設定は適切であったか。 〇具体的な目標をもち意欲的に活動するよう指導できたか。 〇時間や学校のきまりを守り、活動するよう指導できたか。	・事故などの対応は適切で、大きな怪我などは無くて良かった。 ・夜の活動まで時間が長く空いているときの時間設定について再考する必要がある。 ・時間を意識して動けるよう声かけを行い、チャイムには着席・教室入室ができる状況であった。 ・地域の方々に対しても良い姿を見せることができた一方、一部の生徒が不要物を持ってきていた。	A b B b	・日没時間等に合わせて、もう少し細かく時間を振り分けて、安全でありながらも生徒の活動時間を増やせるように変更していく。 ・下校時間を守れない状況がある。下校への意識付けの声かけを行う・顧問だけではなく、職員全員で部活動に対する取り組み方について指導していく。
生徒指導	動	課題に主体的に取り組む生徒の育成	〇規律ある学校づくり(生徒会3本柱活動)に関して問題解決ができるよう指導の工夫ができたか。 〇いじめ・仲間外れでさびしい思いをすることがない学校を作ろうとする意識は高める指導ができたか。	・3年生を中心に規律ある学校づくりができた。時間に対してはルーズな面があった。	A a	・時間を守るということを、教師自ら実践し教えていきたい。 ・西箕輪中学校「人権宣言」の趣旨を大事にして、お互いの違いを認め合い、思いやりの気持ちをもって生活するよう指導する。	
		共通基盤に立った生徒指導	〇実態に応じて具体的な指導項目を決め、学年全体で指導できたか。 〇「報・連・相」を日常的に行い、生徒一人ひとりの状況について共通理解ができたか。 〇学校生活アンケートや、ケース会議、教育相談、その他学校の教育環境が、いじめ・仲間外れの早期発見に有効に機能したか。 〇いじめ・仲間外れの発生に関しては、発生の事実を迅速に職員に周知し、共通理解のもと指導が行われ、再発防止に的確に取り組むことができたか。	・生徒指導委員会を週に一度行い、共通理解が図られるようにしている。 ・教育相談と担任(学年)と、共通理解を図りながら、進めたい。 ・学校での管理下において起きたけがの内、医療機関受診の必要な生徒に対し応急処置を行うと同時に、関係職員に連絡をとり医療機関のスムーズな受診へと結びつけることができた。 ・友人への悪口など、いじめにつながりそうな事例に対して迅速に対応ができた。 ・いじめ・仲間外れの発生に関しては、発生の事実を学年職員、生徒指導委員会が迅速に職員に周知し、再発防止に的確に取り組むことができた。	A a	・生徒指導のスタンスを「生徒のよさを認め励ます」とし、自己肯定感を伸ばすことを心がける。生徒保護者への対応は丁寧に行う。 ・学級通信・学年通信・学校だよりや個別懇談等で、生徒のよさや頑張りを具体的なエピソードとして伝えていく。 ・報告・連絡・相談のできる体制を継続して、今後も風通しの良い学校をつくっていく。	
		個の願いに寄り添った進路指導	〇自分の将来に夢をもち、その実現に向かって進路を具体的に考えられる指導ができたか。	・2学年のキャリア教育では、外部講師を招いて学習した結果、生徒は将来に目標を持つことができた。 ・3学年の進路指導では、進路指導主事と担任を中心に個別かつ具体的に進路を考えて選択した。	A a	・外部の講師は引き続き活用していく。卒業後の進路については、今後も大事に扱っていく。	
学校運営	安全	安心で安全な学校	〇一人一人の生徒の居場所づくり等について生徒とのコミュニケーションを十分とることができたか。 〇本校の生徒が安全に登下校できる指導を行うことができたか(交通、不審者、熊への対応等) 〇施設が安全で防災体制が整っているか。	・保健室が相談でき場であることを知らせ、相談しやすい環境を整えた。相談に来た生徒に対し時間を作り話を聞いた。相談室でも個に応じた対応を丁寧に行った。 ・春と秋の交通安全旬間中、懇談会、不審者情報のあった際には生徒に指導喚起し、該当指導へ立った。怪我に結びつく交通事故等の発生はなかった。 ・整っている	B b A a B b	・個々の実情に応じて柔軟な対応を継続していく。心配な生徒には個別の支援会議を行い、関係者が連携して対応できる体制を作る。 ・今後はさらに西箕輪コミュニティスクールとも連携しながら、安全な登下校を確保していく。 ・今後も消火器、消火栓等の交換やチェックを計画的に行っていく。	
		地域と連携	適切な情報発信 多様な交流の計画	〇参観日の授業評価が適切に行われ保護者の意見を吸収することができたか。 〇学校保護者アンケート等で保護者の率直な意見が聞けたか。 〇学年・学級PTAの運営を工夫し、保護者との連携を図ることができたか。 〇学校・学年・学級から必要に応じて情報発信ができたか(紙面構成を工夫し、読んでみたくなる通信) 〇心を豊かにする交流が積極的に行えるような指導ができたか(伊那養、保育園、福祉施設との交流・外部講師による支援・等、地域との連携)	・アンケートは毎回行っていたが、提出率が悪かった。玄関に置いておくだけでも増えない。 ・全校配布して回収したアンケートについては、回収率は76%だった。今年度は「学校自己評価アンケートから見える本校の良さや課題」として8ページのまとめ・回答文書を全家庭に配布した。 ・学校だより、学年だより等、写真などの情報も盛り入れながら発行することができた。 ・今年度学校ホームページを刷新して、より更新しやすいものにした。 ・様々な福祉施設が近くにある特長を生かして、計画的に各学年の交流が行われた。 ・吹奏楽部は各施設や敬老会で演奏する機会があり、中学生による地域貢献に大きく寄与した。	A b A a	・毎回でなくても、学級等で配布して書いてもらうのもよい。 ・保護者アンケートに書かれた意見要望には、学校の考えや取組を丁寧に伝え、授業参観で改善の様子が示せるよう努力する。 ・生徒のよさや頑張りを具体的に伝えるなど内容を充実させていく。 ・ホームページについては更新頻度が上がるよう工夫する。
		研修	一人一公開による授業研究	〇全校研究テーマ具現を共通の目標に課題と手だてをもって公開授業ができたか。	・一人一公開授業を行い、お互いの授業を見合って研究した。「授業を語る会」の実施「一公開のまとめ」作成「授業づくり情報「ひとりごと」」の発行等で情報を共有し研修が深まるよう工夫した ・1月に大町一中の研究主任を招いて「学び合いのある授業」について研修会を行った。	A a	・学年会での道徳科の授業づくり、異教科グループによる一公開授業参観を通して、学び合いを軸とする授業に全員で取り組み、普段の授業が充実することをめざす。
学	修	思いやりの心やコミュニケーション力を育む指導について	〇小グループでの学び合いに関する授業づくりは有効であったか。 〇生徒理解のための研修ができたか。(事例研究や不適応生徒の理解)	・授業を通してお互いのよさを生かす授業づくりを心がけた。学級経営、生徒のよさを伸ばす生徒指導、いじめに関する指導について、職員会やその都度の情報交換で、お互いの力量向上に努めた。	A b	・今後は職員会での研修時間を更に確保して、子どものために役立つ研修を確保していく。また年3回の研修会で大いに学び合う。	